

食育文化都市にふさわしい「郷土を愛する心」を培い、新しい時代を生き抜く「志」 高い人材を育成する

地域の
特色ある
活動

福井県小浜市教育委員会

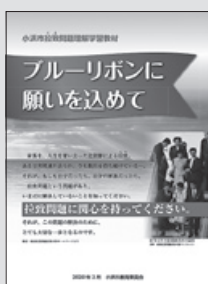
1 はじめに

小浜市は、福井県南西部に位置し、人口約2万9千人の自然豊かなまちです。学校数は、小学校9校、中学校2校で、平成31年4月には東部地区の4小学校が統合し、新たな小学校として開校しました。

本市の特色ある教育活動として、最初に「食の教育」と「拉致問題理解学習」の2つを紹介します。

本市は、古く飛鳥・奈良の時代より朝廷に塩や海産物などの食材を提供してきた御食国であり、その歴史を継承する食育文化都市として多彩な取組を進めています。

学校教育においては、地域の食材をふんだんに使用した校区内型地場産学校給食の充実を図り、市内全小中学校で自校調理を堅持しています。また、日本の食文化の象徴である塗箸の一大産地として、若狭塗箸の生産シェアが国内の80%以上を占めていることから、「箸を正しく使って魚を美しく食べることができる」食の教育にも力を入れています。



拉致問題理解学習教材

一方、拉致問題理解学習は、人権教育推進の重点施策として市内全小中学校が取り組んでいます。

本市が独自に作成した学習教

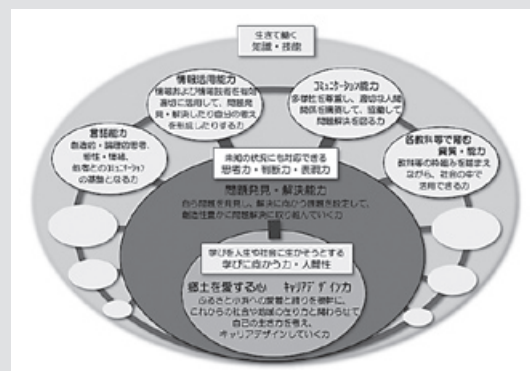


拉致問題理解学習

材「ブルーリボンに願いを込めて」を用いながら、拉致被害者である地村保志さんの出前授業を毎年度実施し、教員も含めて児童生徒に拉致問題に対する正しい理解と人権意識の高揚を図る学習を進めています。

2 本市の教育がめざすもの

「人づくり」は「まちづくり」の重要な取組です。市の最上位計画である「第6次小浜市総合計画（令和3～12年度）」を踏まえて策定した「第2次教育に関する大綱（令和3～7年度）」では、小浜市教育方針を「食育文化都市にふさわしい郷土を愛する心を培い、新しい時代を生き抜く『志』 高い人材を育成する～ふるさととの自然・歴史・文化・食に誇りを持って、小浜市の未来を切り拓く人づくりの推進～」と定め、本市の教育がめざす人間像として「ふるさと小浜を愛する心を根幹に、志を持って学びを人生や社会に生かしていく人」・「自分でものを考え、決断できる力を身に付け、未知の状況にも立ち向かっていく人」・「多様な人々と協働して、困難な課題を乗り越えていく人」の3つを掲げています。



小浜市の教育が育む7つの資質・能力

また、そのような「人づくり」の実現に向けて、「問題発見・解決能力」を中核とした7つの資質・能力を設定し、その育成をめざしています。

3 ふるさと教育・キャリア教育の充実

本市では、平成22年度から、ふるさと教育の中核に「ふるさと小浜 MIRAI



市長出前授業

事業」を位置づけ、市長による出前授業を各学校輪番で実施してきました。

毎年4月に、市長から「地域の活性化策」が宿題として出されます。児童生徒は体験活動を通して地域の宝や抱えている課題を知り、宝の活用策や課題の解決策を考え合っており、年度末には自分たちのアイデアを市長や地域の方々に提言するという探究的なふるさと学習に取り組んでいます。

また、ふるさとの未来図と関わらせて自分の生き方を考え、キャリアデザインを描いていく、キャリア教育の充実も図っています。

今年度からは、「ふるさと小浜 MIRAI 事業」をさらに進化させた新規事業として「小浜の未来を担う総合教育事業」を立ち上げ、予算も全体で100万円増額させています。

この事業の一番の特徴は、各学校に昨年度までとほぼ同額の基本予算を配当しつつ、地域の特色を存分に生かした魅力的でダイナミックな学習活動を計画している学校に対しては、計画に見合うだけの予算をさらに上乗せしてつけていく点にあります。新規事業予算の増額分はそのために用意したものです。

もちろん、応募する学校には企画書と予算書の提出およびプレゼンテーションを求め、査定を行います。査定に際しては、教育委員も審査委員として参画しています。

この事業の推進を通して、各学校のカリキュラム・マネジメントがいっそうレベルアップするとともに、児童生徒のふるさとへの愛着と誇りを根幹とした問題発見・解決能力が着実に育成され、高校生段階でのよりハイレベルな探究活動につながっていくことを

期待しています。

4 資質・能力を育む授業づくりとカリキュラム・マネジメント

本市がめざす7つの資質・能力の育成に向けては、カリキュラム・マネジメントはもちろん重要ですが、一番の鍵は授業にあると考えています。教科・単元を通してどのような資質・能力を育むのか、常に意識しながら1時間1時間の授業を見直し、その質を高めていくことを学校に求め、支援しています。

この点、本市には、学習主体を児童生徒に置いて、彼等の創造力や判断力を大切にしながら確かな学びにつなげていく「3S学習」という授業理論があります。この理論に基づく授業づくりを40年近くにわたって積み上げてきた歴史があり、誇れる強みです。

現在、各学校では、「3S学習」による授業づくりを基盤として、教科の本質を踏まえて育む資質・能力を各単元で明確化するとともに、学習の基盤となる汎用的な資質・能力や現代的課題に対応して求められる資質・能力を、教科・領域を横断してカリキュラム開発する、といった実践研究を進めています。

5 おわりに

小浜市の教育がこれまで大切に育ててきた実践を継承しつつ、Society5.0社会に対応できる新たな資質・能力の育成や持続可能な開発目標であるSDGsへの対応もたいへん重要であり、それらとのベストミックスを図った教育課程の編成を進め、本市の教育をより高い次元に進めていくことが今後の目標です。

そのためには、本市の教職員が心身ともに元気で児童生徒のそばに立ち、共に学び続けていけるよう、学校における働き方改革をさらに前進させていく必要があります。小浜市教育委員会としてしっかり学校を支援していきたいと思っています。



教育長

窪田 光宏